北海学園大学附属図書館報

図書館だより

1990. 12. 5

第12巻4号

通巻116号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

ことの葉

彩時記

除夜の鐘

菱川　善夫

除夜の鐘を聞くと囚人を思いだす。そのようになったのは，中原中也の詩を知ってからである。

除夜の鐘

除夜の鐘は暗い遠いい空で鳴る。
千万年も，古びた夜の空気を顫はし，
除夜の鐘は暗い遠いい空で鳴る。

それは寺院の森の霧った空…
そのあたりで鳴って，そしてそこから響いて来る。
それは寺院の森の霧った空…

その時子供は父母の膝下で蕎麦を食うべ，
その時銀座はいっぱいの人出，浅草もいっぱいの人出，
その時子供は父母の膝下で蕎麦を食うべ。

その時銀座はいっぱいの人出，浅草もいっぱいの人出。
その時囚人は，どんな心持だろう，どんな心持だろう，
その時銀座はいっぱいの人出，浅草もいっぱいの人出。

除夜の鐘は暗い遠いい空で鳴る。
千万年も，古びた夜の空気を顫はし，
除夜の鐘は暗い遠いい空で鳴る。

『在りし日の歌』（昭13）に収載されているが，中也は，昭和11年11月10日に，愛児文也を失った。悲嘆のあまり，死児を抱いて棺にいれなかったという。中也が除夜の鐘を聞きながら，「父母の膝下で蕎麦を食う」子供の姿を思い描いたのは，理由のあることだった。「蕎麦を食うべ」の哀調には涙がこもっている。

しかし中也の心はそこにだけとどまっていなかった。突然「囚人」の「心持」へと飛躍する。彼自身，囚人の心に近かったとはいうものの，銀座，浅草の「いっぱいの人出」の中で思い出される囚人の心は胸を刺す。

〈除夜〉は除夕ともいう。一年を除く夜の意から来ているのだが，もともと〈除〉には邪気を除去するという意味がある。一年の邪気を払い，新しく来る一年の倖を祈るのがこの日である。除夜の鐘を108回つき鳴らすのも，108煩悩を除去するためである。

しかし除夜の鐘が，悲しみを深くすることだってある。迢空もその一人だった。

除夜の鐘つきをさめたり。静かなる
世間にひとり我が怒る声　　釈　迢空

（ひしかわ　よしお　教養部教授）

伊藤深水画「雪の宵」

ハロージャパン ④

教育の価値——何を読むかであなたが決まる

Richard D. Kizziar

Since this is my last time to write for the libray journal, I want to speak now about the value of education. There is a little truth in what the Beatles said, "You are what you eat". However, I think there is more truth in what George WILL, an American political commentator, said, "You are what you read".

This is Hokkai Gakuen *University*, so here teachers ought to show their students as large a *universe* of knowledge as possible. However, teachers cannot do everything ; the student must take charge of completing his or her own education.

Therefore, my advice to students is to read as widely as you can. You can always start with the newspaper. But this is not easy ; the newspaper has so much news from all over, and it is *news*, new things, just happened, so you can only see a small part of the picture. The way to overcome this is to choose a topic or two, and read about those topics everyday. Soon, you will learn the names of the people involved and where they stand around the question : for example, 'A' is for a change, but 'B' is against it.

Next, try to understand an international problem. Read the points of view of both sides. For example, on the qustion of rice imports, both the Japanese and the American sides have points of view worth considering. The U.S. news magazines, *Time* and *Newsweek*, are good at presenting the U.S. point of view.

However, it is even more important to see how the question fits into a world context. How does the question of rice imports to Japan fit into G. A. T. T. (General Agreement on Tariffs and Trade) ? Or, how does this one small dispute between two countries fit into the overall pattern of world trade ?

After that, try to make some higher principles, for yourself to keep in mind. These principles should be fair to everybody, for example, "Free trade is good" , or "Japan should never use military force abroad". Plus, try to keep these principles close to your consciousness.

An example in which this did not happen is as follows. The U. S. president, Mr BUSH, telephoned the Japanese prime minister, Mr KAIFU, a month or so ago. He asked whether Japan would send soldiers to faraway places. To outsiders, it seemed like Mr KAIFU said OK only because he did not know how to refuse. Yet, the Diet refused to concur, so the prime minister looked bad. Consequently, American newspapers are now saying that Mr KAIFU got into trouble because he did not have any solid principles close to his heart. If he had answered that there was 'something' even in his stomach that refused, and meant it, but proposed other ways to help, the American people would have doubtless accepted that and respected him for it.

Finally, you are a well－rounded person who enjoys reading and studying for its own sake. Plus, you will have standards within yourself by which to judge what you read. As for my self, I really enjoyed my two years in graduate school because for two years all I did was to read and write. I wish students here would say the same thing and mean it.

（R．D．キザー　教養部講師）

第30回社会教育研究会全国集会に参加して

野　口　迪　子

1990年8月25日から3日間，斜里町ウトロ温泉知床第一ホテルで，北海道で初めての全国集会が開かれた。知事の講演もあり，地の果てといわれた知床は900人余りの家族ぐるみの集会でにぎわった。保育室や子ども野外教室もあり他の集会でみられないat homeな感じがある。社会教育がいかに住民や地域の人びとととともに歩まなければならないかが，テーマ「大地に根をはる社会教育は，くらしと仕事を考え，地域をつくる――人間らしく働らき生きるために学ぶ自由と権利の実現――」にもうかがえる。

当日領布の報告書「日本の社会教育実践1990」には，23の分科会討議の柱・レポート（7分科会：くらしの中に生きる図書館），基調提案，5つの課題別集会のレジメ，その他が収められている。①地域から生涯学習をどうつくるか，②四全総・リゾート開発と社会教育，③情報ネットワークと社会教育実践，④地域文化の継承・発展と社会教育，⑤自然保護・自然学習と社会教育。そのうち，私は④に参加した。50名近くが座敷で机を前にし，次々と回覧される掘り出された頭蓋骨や墓標などの大写真に，まず度胆を抜かれた。「北海道開拓と民衆史運動（中川功），〝月刊社会教育〟，1990，7月号，特集：北の大地からくらしを拓く」の抜刷が配られる。そのはじめには「…（前略）『知床旅情』は，人びとの心に，北海道の澄みきった青空，広大な原野を連想させる。しかし，ロマンに満ちたこの歌とは裏はらに，北海道の民衆の間には『枕木一本，ひと一人』の言い伝えが残っている…」とある。北海道開拓と強制労働，その町，留辺蘂（るべしべ）町をはじめ，札幌などを含む郷土の埋れた事実が，住民の生活のなかに生き生きとした学習として盛り上っていた。

「大地に根をはる社会教育――北からの提言，1987」と「大地に根をはる社会教育――第2集（特集：北海道の社会教育実践）1990」，北海道社会教育推進協議会編集・発行（北大教育学部社会教育研究室内）の2冊には，1977年からの北海道全体の活動をみることができる。また，「オホーツク社会教育研究実践報告，vol. 1，1990」，研究会代表菊地一春（訓子府）発行には，会の発足（1982）からの活動の数々，これを支え育くんだ人びとの熱い思いが記されている。このオホーツクの社会教育にたづさわる人びとの日頃の実践が大自然の究極の地，知床にもう一つのはなを咲かせたと思える。

早朝の自然観察会や夜の知床塾まで，折からの台風くずれの雨の合間に，寸時を惜しんで学びたのしんでいる学生もいて，こんな思いを次回松本（長野）で体験してみてはどうかと筆をとってみた。

（のぐち　みちこ　教養部助教授）

新着図書 ―― 経済

経済学と歴史変革　尾崎芳治著／**経済解析**　基礎編　宇沢弘文／**アダム・スミスの資本理論**　藤塚知義著／**金・貨幣・資本主義**　毛利明子／**日本経済論**　秋山喜文著／**ドキュメント日本経済**　高槻博著／**チャリズム**――世直しの経済学――　三橋規宏著／**経済政策**　佐藤武男／**世界経済と南北問題**　内田勝敏／**経済学総論**　岡部博編著／**日本経済学史序説**　片岡信之著／**ドル体制の衰退とアメリカ多国籍企業**　古田秋太郎著／**現代の経営管理**　稲村毅〔ほか〕編著／**金融経済読本**　阿達哲雄著／**日本の株価・地価**――価格形成のメカニズム――　西村清彦編／**金融政策を考える**　岡部光明著／**図説日本の証券市場**　平成元年版　内田輝紀／**現代ホワイトカラーの労働問題**　神代和欣編／**産業組織論の新展開**　小西唯雄編／**土地問題総点検**――土地神話への挑戦――　本間義人著／**どうなる地価，どうなる地価！**　地価問題研究会編著／**土地診断マニュアル**　長銀経営研究所編／**現代マーケティング論**　西村林著

東洋文庫のすすめ (四)

小野誠二

今回は『**菅江真澄遊覧記**』(内田武志・宮本常一編訳)(5冊)を取り上げる。

この書を読んで心に残った箇所は数えきれぬほどであるが，三つの話だけ抜き書きする。

「桐光寺という寺の前に高札がでているのを見ると，どこの国の誰ともわからぬ，歳三十あまりの女，この八月四日，草の上に行倒れになったので，遺体をここに埋めておいた。五，六歳ばかりの幼児をひとり残してある，と書かれていた。これを読んで涙をながさない人はなかった。」(Ⅰ)

「柴刈の人が二人山からでてきて，これをたがえて《何でも手にとることをたがくといっている》というので，背負っている目のあらい籠にはいっているものをとってみると，山葡萄(やまぶどう)の実に似たものである。これは歯によくきく薬として，市日に路傍の物売りが売っているという。味は葡萄と同じである。」(Ⅰ)(薬草や医薬に精しい真澄のことであるから，この種の観察記録がしばしばみられる。この話は山形でのものであり，どうということもないといえばそうであるが，私は「たがく」という言葉に興趣を覚え，他の至るところでもみられる，そのようなちょっとしたことにしっかり耳を傾け，眼をそそいでいる緻密な心がこの書をこの書らしい秀れたものにしているのだなと感じた。因みに，私はふるさと青森で「たがく」に似た「たなく」という言葉を使って育った。)

「夫が旅にでている人の妻であろう，泉のもとで玉かしわ(まるい小石)二つを，心をこめてしきりに洗っている。これは，毎朝このように水ですすぎ，上(かみ)にむけたわらじのはな先のところに，その二つの石をのせる。夕方になると，おなじ石を塩ですりみがき清めて，これを休ませるといって，棚にならべ，神酒をそなえることを日課としているのである。指を折って帰る日を数え，こちらに向かってその人が帰途についたであろうと思うと，沓(わらじ)のくびす(かかとに当る部分)をむこうにむけかえて，小石をつま先の面におく。ところによってこのしぐさに少しのちがいはあるが，古くからの風習であろう。」(Ⅳ)(昔の旅の苦労を考えれば，この話もさもありなん話と思えるかもしれない。しかし，それにしても美しい風習である。現代の私たちがとかく忘れがちな「暮し」というものがしっかりみられる。私たちはともすれば「暮し」を脇においてしまって，ひたすら，「時」を「流す」ことに意を集めようとする。それだけ人生がうすっぺらなものになる。)

内容の逐次的紹介は到底無理なので，今回はこの書のほんの外側からの紹介と，印象としての読後感を柱に他に思いつくままのことを，箇条書きに書き連ねさせて載くことにする。

1. 今からちょうど25年前に，東洋文庫でこの『遊覧記Ⅰ』が出版されたとき，なにかの縁で早速読み大層興味を覚えたものであった。とくに，青森市の近辺で，飢饉に苦しんで他の土地へ逃れつつある人たちを眼のあたりにして，往時，天明の飢饉(1783－84)のさいに人肉を食した話をきいたことを書いているのをみてひどくショックを受けた。(三浦哲郎『おもしろ草紙』にはその約半世紀前の，八戸藩での三千人もの餓死者を出した飢饉の折の人肉食いのことが生々しく語られている。この書を読むには，最近完結した『昭和文学全集23』を利用すればよい。ついでに言えば，人肉喰いの問題を考える一つの手懸かりを与えてくれる小説に，武田泰淳『ひかりごけ』，野上彌生子『海人丸』，大岡昇平『野火』などがある。)今回再読，以下Ⅱ－Ⅳの四冊も合わせ読み，やはり非常

新着図書 ── 法律

必携法令難語辞典　浅野一郎編著／**刑事訴訟法**　鈴木茂嗣著／**法と経済学**　トーマス・S. ユーレン共著／**法学の基礎**　寺澤一編／**入門アメリカ法**　丸山英二著／**ヒロシマと憲法**　水島朝穂〔ほか〕共著／**ホーンブック行政法**　兼子仁〔ほか〕著／**行政法**　南博方著／**現代行政**　成田頼明〔ほか〕著／**リース取引法**　山岸憲司〔ほか〕著／**取引と損害賠償**　篠原弘志〔ほか〕編集／**家族法概論**　有地亨著／**親族法概説**　太田武男著／**スイス会社法**　細田淑允／**会社の社会的責任**　松田二郎著／**手形判例の基礎**　倉沢康

に心をひかれたばかりでなく，啓発されることも多く，それよりもなによりも民俗学上「大変」な，貴重極まる書物であることを強く感じ，知った。その上なお，それは「讃歎せずには居れぬ」「鮮麗にしかも感動深き記録」である。（柳田国男『菅江真澄』創元社，昭17。本図書館の小林文庫にある。）それは，記録されている地域が，秋田，青森，岩手，北海道（南部）が主で，その北海道の函館で私は生まれ，秋田で幼児の一時期を過し，青森（故里）で青少年時代を送っているゆえの親近性が多分に混っていることも否めない感想であろうか。

2．菅江真澄は宝暦4年（1754）頃に三河国（愛知県東部）で生まれ，天明3年（1783）に東北に旅立ち，文政12年（1829）に秋田の角館（かくのだて）で逝去するまでのおよそ45年間，東北北部と北海道南部の民衆の日常生活を，私感を混えず，克明に書きに書き続けた。それがこの『遊覧記』（もとより，この題名は後人の付したものである。真澄の書き残したものはその三，四倍にものぼり，全集〈内田武志，宮本常一編，未来社，昭48－52〉は12巻と別巻の13冊から成り，本図書館にある。）

3．記録は，秋田を目ざす旅の途中の長野，山形については僅かであり，秋田，青森についてはとくべつに精しく，岩手，北海道についてはやや簡である。なかでも青森についての見聞記は，精しいだけでなく生気に充ち溢れている。それに同じ所を，しかも足を運ばぬどんな避地もなしといった具合に歩き回っている。当時の道路事情を考えればよくぞというものすごい健脚のようであるが，しかし，読んでいて，この人はなにか一種の狂気に憑かれていた冒険家でもあったのではないかとさえ思われもする。雪深い冬に誰も行かぬ山奥の瀧を見に出かけたりするとてつもない大膽さもその一証左である。それでいて，反面，真澄はよく風邪をひいてもいるのである。ともかく，真澄は「執拗」な人だったと思う。それではなにゆえに「秋田」とか「青森」といった辺境を「さまよい」，探り込んだのであろうか。未知の辺境ゆえ，としか言いようがないものか。それはよくわからぬ。しかし，それとは別に，真澄は，「歩き」と「記録」を通じて，人間としてもすこぶる，それこそ人格的に豊かで円満な成長をみせたようである。晩年の肖像画を見ると，いかにもおだやかで円熟した風貌からそのことが察せられる。「一心に続ける」ということは何事にせよ「恐しい」ことであり，必ず何事かを成就せしめるものである。（もちろん，真澄は記憶力と想像力に富んではいた。）その成就の過程において，成就の行動者本人を見事に成熟させることは理に合ったことであろう。

4．『菅江真澄遊覧記』は全冊，内田武志のこの上ない至りつくせる注と解説がついている。真澄の研究に全力を捧げている感じがよく伝わってくるものである。このような人の存在は「尊い」と言ってよい。

5．原文にも少し眼を通す程度で読み易い本に秋元松代『菅江真澄』（朝日評伝選14，朝日新聞社，昭52）がある。同じ東洋文庫に『菅江真澄随筆集——内田武志編』がある。また，最近，『菅江真澄民俗図絵』上，中，下巻（岩崎美術社，1989）という豪華本が本図書館に備えられた。人物画があまり上手とは言われないが，彩色の見て楽しい本である。

6．話はそれるが，菅江真澄といえば連想されるのは，秋田の大館出身で八戸で町医者を開業していた特異な思想家，安藤昌益である。（ノーマンの『忘れられた思想家』上，下〈岩波新書〉で高い評価が与えられている。）昌益は，真澄より約50年前の1703年の生まれである。同じ秋田出身の狩野亨吉（思想家，一高校長，京大初代学長）によって発見された『自然真営道』，および『統道真伝』に描かれた急進的な例のない「直耕」の思想（直接に田畑を耕す「直耕」を万事の基本とした徹底的は平等思想）は，真澄の己れを殺したかのような民俗記録の姿勢と対照的でありながら，いかにも避地，北東北の中央から孤立した土地でこそと言いたくもなる独創性溢るる「労」にかけた両者の熱情には，どこか共通性を思わせるものがある。（安藤昌益については，安永寿延『安藤昌益』（平凡社選書46）という良書がある。）

（おの　せいじ　教養部教授）

法律 —— 新着図書

一郎著／**刑法**　垣口克彦〔ほか〕著／**刑法總論**　坂本武志著／**結果的加重犯論**　丸山雅夫著／**客観的未遂論の基本構造**　宗岡嗣郎著／**刑法各論**　坂本武志著／**刑法各論**　曽根威彦著／**明治立憲制と司法官**　楠精一郎著／**法と刑事裁判**　沼尻芳孝著／**著作権法**　尾中普子〔ほか〕著／**概説　労働基準法**　田中清定著／**注釈労働時間法**　東京大学労働法研究会著／**実体的適法手続**　石田　尚著／**留置権論**　薬師寺志光著／**組織犯罪対策マニュアル**——変貌する暴力団にいかに対処するか——　飯柴　正次著／**日本公証人論**　植村　秀三著／**アメリカ移民法**　川原　謙一著／**公務員懲戒の研究**　中村　博著

気楽に読もう 番外編

〈なぜか野良猫の逆襲〉

「宇宙犬ビーグル号の冒険」
山田正紀著／早川書房 1990

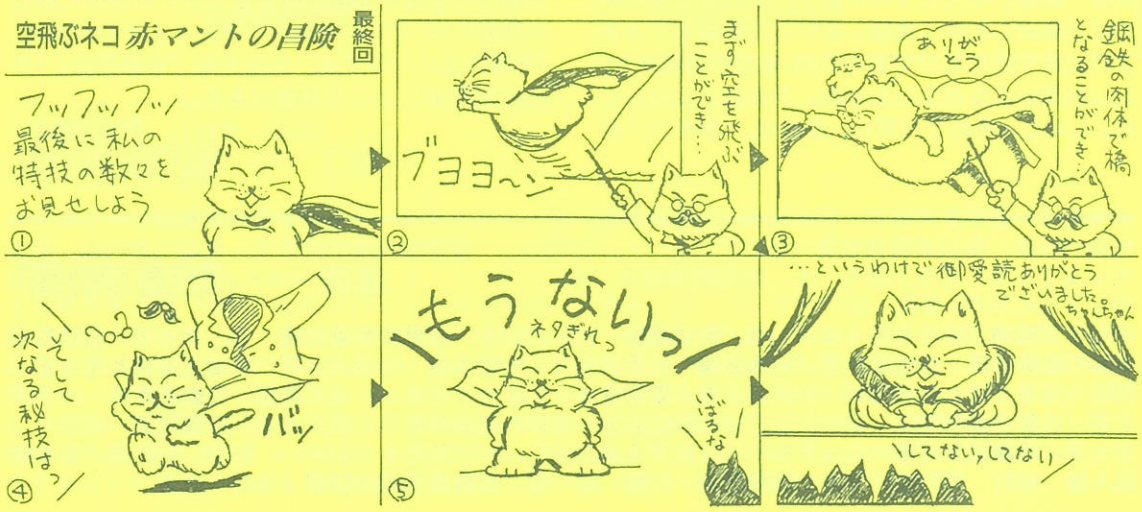
[前置]最近，野良猫が多い，ここ数年，目立って多くなってきた。我が家の周りも黒猫，ぶち猫が路地を走り，屋根の上を走り，車の上を走り，傍若無人の振舞いである。朝，車の上に点々と足跡が付いているのを見付け（これが結構目立つのだ！）「やられたっ！」→「くそうっ。覚えておけよっ！」と何度空しく叫んだことか。

昔は「飼い猫なんかより，俺は自由が欲しい！」という正しい野良猫が多かったのに対して，現在は「捨てられたから仕方なく野良猫になったのさ。ふん。」という〝ぐれた〟野良猫が多くなっているのではないだろうか。これでは正しい野良猫の在り方？も何もあったものではない。その原因はペットをゴミのように捨てる人間自身にあるにもかかわらず，「目障りだから殺せ。」と言う人が最近多くなったという。猫には受難の時代なのだ。

[本題]猫がポーカーフェイスなのに対し，犬はすぐ態度に出る性質のようだ。誰彼かまわず脳天気にしっぽを振るかと思うと，しつこく吠え続けたり。典型的に感情に流されるタイプである。良く言えば素直？なのだが。猫のように野良化して生きて行けるほど世渡りは上手くない。しかし，犬には犬の事情があるようで「宇宙犬ビーグル号の冒険」（人間の為に侵略者と闘う犬の物語）のビーグル犬〝シシマル〟の告白によると，しっぽを振るのにも，吠えるのにも，ちゃんと理由があるようだ。とにかく人間を主人として慕っているのは事実であり，犬が無分別に見えるのは，その素直な性格が災いしているというのはありそうな話である。うん。正直者は誤解を受けやすいのです。

犬，猫，その他動物を中心にした物語は数多い。その物語の中では，我々が普段目にしている行動や癖にも，それなりの理由がある。それが事実かどうかは別にしても，その観察力と描写には作者の動物に対する愛情が感じられるのだ。それだけでも「読む価値はある！」と思うのだが。

（図赤マント）



気楽に読もう

「文藝春秋」にみるスポーツ昭和史　全三巻

文藝春秋刊　1988

総合月刊誌「文藝春秋」と週刊文春・Number等に掲載されたスポーツ記事を集めたものです。〜いってみればスポーツと人間生活とのかかわり，社会との関係史，スポーツはその時代をいかにうつし，同時にその時代といかに闘ったか，という社会的色彩が濃厚な「スポーツ昭和史」である。あとがきから〜

今年のプロ野球はいったい何だ！　と，ご立腹の諸兄に昭和54年の日本シリーズ近鉄―広島の第7戦ドキュメント〝江夏の21球　山際淳司著〟がおすすめ，広島ファンには忘れられない感動のシーンが甦り，そしてきっとこんな面白いシリーズもあったのだと思いおこすことでしょう。

（第三巻所収）　（E）

アウトドア・クッキング入門

BE−PAL 編集部編　小学館

アウトドア・クッキングと聞いて，それって家の中じゃ煙いので外でサンマを焼いちゃおうって言う本ですか？　と言った人がいますが，それは違います。

小学生のとき，炊事遠足に行った事があるでしょう？　あの頃は小さかったし，料理なんてした事なかったから，たいがい，カレーライスとか豚汁なんてメニューだったけど，青空の下で，友達とワイワイ言いながら食べるのって楽しかったですよね。それの究極の楽しみ方を教えてくれるのが，この本です。

あいにく今は冬，季節外れの，おすすめ本ではありますが，読んでみてください。

（さんまやき隊）

透明人間の告白 ―

H．F．セイント　著　高見浩　訳　新潮社 1988

もし，ある日突然，あなたが「透明人間」になったらどうしますか？　最初は，どんなことでも出来ると喜ぶでしょう。けれども，時間が経つにつれ，今まで何気なくしてきた日常生活が出来ないことに気が付いてきます。例えば，食べ物を手にいれる方法，また，その食べ物を食べたらどんなふうに見えるのか？　仕事はどうするのか？　など，次々と難問が出てくるはずです。

この小説の主人公は，とんでもない事故に巻き込まれて，「透明人間」になってしまいます。また，「透明人間」をスパイとして利用しようとする秘密情報機関も現れて，様々な難問に直面していきますが，何とか克服していきます。

あなたが，「透明人間」になったらと想像しながら読んでみてください。　（Y）

氷　点

三浦綾子著　朝日新聞社刊　1970

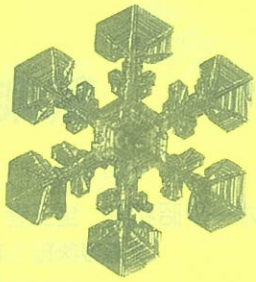
今，あなたが一番大切にしていることは何ですか？　仕事ですか？　趣味ですか？　私は，愛情だと思っています。「そうかもな」とあらためて考えた方のために是非読んでもらいたい本です。

しかも，この一冊にかかわらず三浦綾子の作品の全てがこれを切実に訴えているものばかりなのでどれを取っても満足いただけます。

愛情には，友愛，両親愛，兄妹愛，動物愛など色々な範囲でありとても奥深いものです。それをこの物語では，陽子という一人の少女から大人へ成長してゆく過程で表わしています。駆け引きの情念でなくいつも前向きな姿勢で慎み深い女性です。博愛主義者が，少なくなったこの世の中に神秘的で何か教えられるような貴重な一冊をどうぞあなたもおためし下さい。　（I）

書遊録

雪の季節がやってきたのだ!!



雪が好きですか？　と聞かれて，一瞬うーんと考えてしまいました。そりゃ，スキーも雪まつりも雪が降るからできるんだし，楽しい事もいっぱいあるけど，でも，雪掻きがねー。それにバスは，遅れるし，寒い中バス待つのって辛いんだわー。と思って，すぐ答えられなかったのです。

そんな私がこの本に出会って又，又，考えてしまいました。

「雪の文様」高橋喜平著　北大図書刊行会です。

この本の中に，日本では雪は月や花とならんで美しいものの代表にあげられ多くの和歌に歌われて，後に「ゆきわ」文様になり大流行した。とあります。そうなんですよね。雪って美しいものだったんです。そう思って探してみると雪の結晶の本や雪景色の写真集などたくさんありました。

ここに一部紹介しましたが，雪の悪ぐちばかり言ってないで，降る雪をながめながら天からの手紙の意味を考えてみてください。

高橋喜平　**雪の文様**　北大図書刊行会　[727 Ta 23]

小林禎作著　**雪のエフェメラル**　北大図書刊行会　[454.66 Ko 12]

若浜五郎著　**雪，氷，人**　北海道新聞社　[451.04 W 18]

木下誠一著　**雪と氷のはなし**　技報堂出版　[451.66 Ki 46]

後藤昌美作品集　**大雪残象**　京都書院　[748 G 72]

北海道の自然④　大雪の四季　[291.1 H 82]

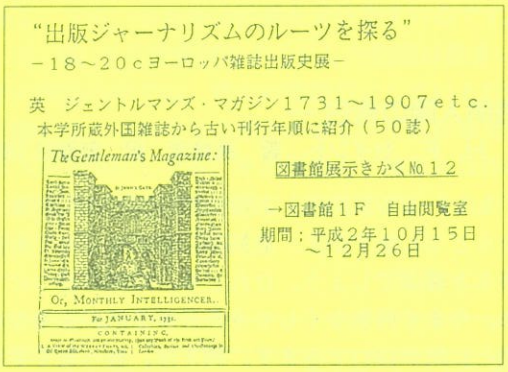
図書館展示会のお知らせ

★展示中です。お誘い合わせの上，ぜひ，御覧ください。

平成２年10月15日～12月26日
〝出版ジャーナリズムのルーツを探る〟
～18Ｃヨーロッパ雑誌出版史展～
英　ジェントルマンズ・マガジン
1731～1907 etc.
本学所蔵外国雑誌から古い刊行年順に紹介（50種）
※展示雑誌リスト配布中
図書館展示きかくNo.12

平成３年１月９日～３月31日
〝愛書展〟～本とは？～(仮題)
本の構造と形態，造本，サイン本，蔵書印，書票，酸性紙など図書館展示きかくNo.13

□場所：図書館１Ｆ自由閲覧室



新着図書 ―― 工学

マーフィーの超感覚力で成功する　J.マーフィー著／**応用光学**　光計測入門　谷田貝豊彦著／**システム工学**　中村義作編著／**土木材料実験指導書**――基礎編――　土木学会編／**都市計画教科書**　都市計画教育研究会編／**カルロ・スカルパ**　A. F. マルチャノ編／**自動制御概論　上**　伊藤正美著／**オプトエレクトロニクス入門**　桜庭一郎著／**パソコンのためのパスカル**　M. ジェイムズ著／**演習 PASCAL トソの応用**　本永朝雄著／**はじめての Pascal**　小池慎一著／**TURBO Pascal によるデータ・図形処理**　伊藤誠著／**TURBO Pascal プログラミング入門**　赤川勝矢著／**PASCAL 入門**　土居範久著／**明解 PASCAL ――国際規格(ISO)準拠――**　伊東正安著／**初めて学ぶ人のための PASCAL プログラミング入門**　R. ケンプ著／**PASCAL 8 週間**　黒川利明著／**Pascal による基本アルゴリズム**　D. V. モファト著／**PASCAL とプログラミング技法**　向殿政男著／**Pascal 入門**　TURBO Pascal 演習　永野三郎著／**マイクロコンピュータによる PASCAL**　中村和郎著／**コンクリート構造学**　横道英雄著

施設探訪 ―その4― 札幌市視聴覚センター

［札幌市中央区北1条西13丁目
札幌市教育文化会館4F(011)271－5861］

ある調査によると，大学生の1日平均読書時間は，37.7分（1989年調べ）多い？　少ない？　さてあなたはどちらですか。

今回紹介するのは，道内唯一の視聴覚施設です。本を読むのが〝嫌いだ〟という人は〝ますます読まなくなる〟のではと多少気になりますが，是非一度訪ねて下さい。おすすめの施設です。

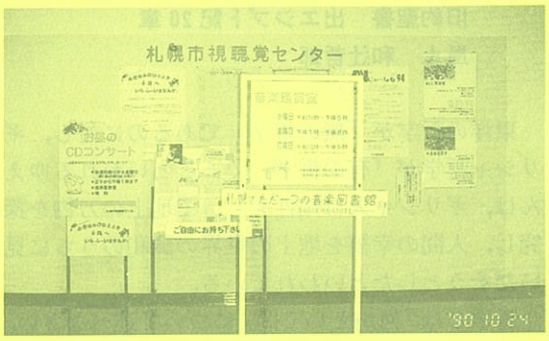
このセンターでは個人と各種団体に視聴覚教材の利用・貸出しサービスと視聴覚機器の操作・教材制作の為の研修なども行われ，学校教育，社会教育を含めた生涯教育サービス機関として活動をしています。

外国語学習の語学演習室

初級から上級まで39カ国語の語学テープとテキスト，特に英語・中国語・韓国語はビデオ・テープで会話の勉強が出来ます。

音楽が聴ける音楽鑑賞室

クラシック音楽を中心にジャズ・ポピュラーなどCD・LPレコードなどあわせて約14,000枚が収集されています。めったに聴くことの出来ない名盤・そして新譜などなどヘッド・ホーンを通して聴くのもなかなか良いものです。



視聴覚教材の制作

録音・録画用機器・VTR編集機・スライド作成機・ダビング・ビデオ方式変換機などが設置されています。またスタジオもあり，学校教育・社会教育向けのビデオ・映画教材の制作をすることも出来ます。

その他，LDによるオペラを楽しむ夕べ，オーディオ新製品でCD・LDの新譜などの視・聴などまだまだ楽しいことがいっぱいです。

交通機関

★地下鉄　東西線　西11丁目駅から徒歩5分
★利用日・時間等は年間を通して決められていますので確認のうえお出かけ下さい。
★休館日　第2・4月曜日

教養 ― 新着図書

西洋図書館の歴史　吉村善太郎著／**心の社会**　M.ミンスキー著／**認識科学とパラダイム論**　M.ドゥ・メイ著／**日本近世国家史の研究**　高木昭作著／**自由西欧は没落するか**　H.コーン著／**イギリス革命と千年王国**　田村秀夫編著／**記者　兆民**　後藤孝夫著／**文化地理入門**――文化研究の遠近法――　千葉徳爾著／**ドイツ反ファシズム抵抗運動史**　上林貞治郎著／**自衛隊は何をしてきたのか？**――　わが国軍の40年――　前田哲男著／**マックス・ヴェーバーと日本**　中村勝己編／**マックス・ウェーバーとエートス**　岡澤憲一著／**アソシアシオンの想像力**――初期社会主義思想への新視角――　杉原四郎〔ほか〕著／**完本トムキンスの冒険**　G.ガモフ著／**数学オリンピック問題集**　アメリカ編　M.S.クラムキン監修／**現代物理学入門**　小島英夫著／**光と電子の科学**　藤原昇著／**百万粒の戦略**――魚の卵はなぜ多いのか？――　河井智康著／**応用物理ハンドブック**　／**シェイクピア**――書斎と劇場のあいだ――　安西徹雄著／**シェクスピア・プロムナード**――芝居の見ところ聞きどころ　大場建治著

やさしい哲学？

私の手が語る　本田宗一郎　講談社
旧約聖書　出エジプト記 20 章
風土　和辻哲郎

東洋の哲学が『無の哲学』であるのに対し，ギリシャ哲学が『有の哲学』であるといわれるゆえんは，ギリシャ人は知性をもって地上の万物を探究し，人間の幸福を地上の世界の調和のうちに見いだそうとしたといわれている。

哲学とは『何かという問』について述べなさい。この『問』かけに様々な解き方があるが，小生に解かりやすく教えてくれたのは「私の手が語る」本田宗一郎著である。

「私にとっての哲学は，何といったらいいか，**人の心の問題を大切にする**ということに尽きるようだ」「現代はとくにそうなりつつあるが，何ごとも事務的に機械的に処理される風潮がつよくなった」「そういう中にあって，心と心を通わせるてだてがますます貴重になる」「人の心を知るための哲学が必要とされてくるのである」「経営者もそうであるが，すべての人が，哲学者ではなくても，**哲学を使う人**になってもらいたい」……と。

モーゼの十戒

モーゼの十戒は，一項目が原語でたった二語でなりたっている簡単なものだったという。第一戒「偶像崇拝」，第三戒「安息日」については長さから考えても，内容から考えても後世の思想の影響が強いとされている。

和辻哲郎は名著「風土」の中でヘブライの民を「砂漠的人間」と規定している。苛酷な砂漠で生きていく人間集団の中では，個人の勝手な欲望充足は許されない。そこには厳しい秩序が要求される。無慈悲とも思える断言型の法，つまり自然界の命令に従う統一が，結局は人間を生かすもととなる。不毛の砂漠でのきびしい闘いが，十戒という倫理性を生んだと思われる。

それに対して，日本人はモンスーン型人間と規定され，ウェットな自然と豊饒な土地に育まれてきた。私たちは厳しい命令的な倫理は残念ながら持ち合わせていなかったのだろうか。

ちなみに第六戒，ラテン語でsexと読む，非常に頭のいたくなる戒律ではあるまいか。　（T）

あなたは手紙派？　それとも電話派？

「心を伝える短い手紙」
清川妙著　主婦の友社

あなたはよく手紙を書く方ですか？　それとも要件は，電話で済ませてしまう方ですか？。手紙を全く書かないと言う人も手紙をもらったら，すっごく嬉しいですよね。もしその手紙が好きな人からだったら，飛び上がって喜ぶでしょう？

電話だって心は通じるけど，手紙の方が重みがあるって感じがしませんか。ヤッホーで始まりバーイで終わる手紙のどこに重みがあるんだ？　って言われそうですが。時間をかけて文章を考えるんだから，やっぱり重いんです。ちなみにヤッホーで始まり，バーイで終わる手紙を書く人，それは私です。

でも，いつもいつも，ヤッホー，バーイでは済まない事も多いですよね。そんなとき，役立つのがこの本です。書き出しで困った時，書きにくい内容の手紙など，なかなか書けず便箋とにらめっこしてないで，この本を開いて見てください。きっと参考になるはずです。

「書かない人」から「書く人」へ大変身。あなたも手紙上手にきっとなれます。(M)

ツー・カー倶楽部

●解　説　　山根　対助（教養部教授）

俳諧といえば芭蕉，とすぐにこの人の名が浮んでくる。まさしく国民的大作家である。そうではあるが，では他の作者たちは問題にもならぬかといえば，そんなことはないのだ。江戸時代の作者でもたとえば，

初恋や灯篭による顔と顔　　炭　太祇
人恋し燈ともし頃を桜散る　　加舎白雄
水一筋月よりうつす桂河　　与謝蕪村

これらもまた日本文学の不滅の光なのである。

連句・半歌仙（その四）

「郭公の」の巻

郭公の声のしづくのいつまでも　草間時彦
夏旬はする木洩れ日の影　萬　達哉
旅立ちの森草原を窓に見て　山本優美
赤いポストに青い絵葉書　達哉
暗闇が黄色に染まる三日の月　今井一登
土をかきわけ芋盗む人　一登
地下鉄の着ぶくれラッシュもうすぐだ　宮崎貴弘
教室温く授業眠むたし　一登
冬風にながるる髪のいとしさよ　一登
川面に映る二人の姿　優美
小春日や残雪すこし涙して　西原秀欣
枝垂柳も枝持ちあげる　達哉
荒れ果てた地に目立ちくる杉菜かな　一登
もう鯉のぼり揚げる人なく　貴弘
土用浪さみしさだけを打ち寄せる　優美
落葉舞って着ぶくれのとき　秀欣
えぞりすや頬のふくらむ冬近し　萬　達哉
行く人の息朝寒の色　優美

知的生産の技術

梅棹忠夫著（岩波新書）

法学部Ⅰ部1年　　岡　部　雅　子

知的生産とは簡単にいえば読んだり書いたり，著したり整理したりすることです。

講義でノートをとってもその後をどうしていますか。コピーをとってそれをどのように活用しているのか。

この本にはそれをフルに活用するためのヒントが書かれています。

沢山の情報が私たちのまわりにあふれていますが，それを選択し利用し自分のものにしていくのはそれなりの工夫が必要ということはわかっているけれども，それを実行していくのはなかなかむずかしいことです。自分なりの方法でやっていかなければなりませんが，この本社はその参考になるでしょう。

後半に「原稿」と言う章があって，原稿を書く際のヒントがいろいろと載っています。

でも，いまこうして原稿用紙を使っている私もなかなかその通りに実行できないのがつらいところです（用紙の正しい使い方もよく知らないし，基本的に文章がなってない）。

この本が書かれたのは20年前で，当時はワープロや一般の人がつかえるコピー機がなかったのですが，著者はその必要性を説いています。

もちろんワープロという言葉はなく，日本語タイプライターとなっていますが。

20年後の今，ワープロやコピーがこんなにも普及していることを著者はどのくらい予想できていたでしょうか。

（おかべ　まさこ）

世界の遊戯・遊戯の世界　④

ドミノと宣和牌

（カットは〝宣和牌〟）

大　谷　通　順

昨年末から東欧で生じた相互波及的な一連の政変を形容するために，50年代の共産圏封じ込め理論で用いられた〝ドミノ〟の語が再度ひっぱりだされていたが，ドミノ牌はなにも将棋倒しのためだけにつくられたものではない。それは将棋の駒が将棋倒しのためにつくられたのではないのと同様である。ドミノ牌はちょうどさいころの面を2個つなぎあわせたような長方形の板で，通常は1から6の目と空白の面が相互に組み合わされ，1セット合計28枚からなる。その最古の遊戯法は18世紀のイタリアで考案されたものといわれるが，のちにヨーロッパから南米に伝わり，さまざまなバリエーションが生み出された。ただし基本原理はいずれも変わらず，同じ目が並ぶように各競技者が交互に牌をつなげていき，手持ちの牌を早く使い果たした者が勝利をおさめることになっている。

一方，中国には〝瑩和牌〟とよばれる類似のゲームがある。宋の宣和2年（1120年）に臣下が考案し，徽宗帝に上疏したものと伝えられるが，真偽のほどはさだかでない。ただ明代後期（16〜17世紀）にはそのルールブックが数多く出版され，しかもそこにはすでに〝多数化〟（前号を参照）を経た〝発展〟後の形態が記されているので，やはりそれよりも以前に原型となる遊戯が生まれていたことは確かである。その伝統的な遊戯法は，麻雀牌のような3枚の牌を単位とする絵あわせと，連載第1回で紹介した馬掉牌のような牌の強弱による打ち合いの2タイプに大別される。牌の形状はドミノとほぼ同じであるが，一般的には1から6の目だけが組み合わされて1セット32枚となり，空白の面は含まれない。

ドミノと宣和牌とは，みたところ牌の構成も遊戯法もまったく異なるので，両者のあいだには何の影響関係もなかったとする意見がこれまでに強い。しかしヨーロッパのドミノは歴史が浅いうえに，既存の戯具とは相当にかけ離れた形態と遊戯法をもちながら，何の前ぶれもなく，ある時期に現在のものと寸分違わぬ形態で忽然と姿を現わしており，その誕生に納得のいく歴史的経過がみられない。文化史的な根のない，いかにも借りもの然とした遊戯なのである。それにくらべて宣和牌は，前身ともいうべき6個のさいころを単位とする遊戯が早くも唐末（9世紀末）には存在し，しかも遊戯法の背景には漢族特有の思惟の方式がうかがえる。

影響問題はさておき，背景となる思惟の問題にふれると，上記の宣和牌の第1の遊戯法，すなわち6個のさいころの面の組み合わせは，連載第2回で紹介した〝博〟の〝箸〟の発展形態とみることができ（正六面体さいころは後代に西方から伝来したもの），やはりその淵源には占筮法があると考えられるだろう。一方，第2の遊戯法の背景には五行の相克説，つまり少々乱暴な要約をすれば，じゃんけんの三すくみが多数化したもの，があるのではなかろうか。その意味で，前回ふれた〝軍人将棋〟は生まれこそ異国ではあるが，漢族の心性にじつに適合した遊戯といえるのである。

（おおたに　みちより　教養部講師）

編集後記

○暖かな秋も終わりいよいよ冬将軍の到来です。○学年暦が変わって短い冬休みとなりますが，計画は立ってますか。○〝桃色〟図書館だよりから〝黄色〟に変身して早くも最終号です。○今年の〝だより〟には毎号，数人の学生さんの連句，読書感など投稿していただきました。これからもご意見，エッセイ，などの投稿をお願いします。

北海学園大学附属図書館報
図書館だより
Vol.12　No.4.（通巻116号）

本　　館　〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
工学部分室　〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841－1161
本館内線　270〜275・279
工学部内線　813・814